平成２７年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
畜産部門

季節繁殖を生かした集約放牧、夢を叶え富をもたらす理想の酪農

〇氏名又は名称　山下　雅博

〇所　　在　　地　北海道天塩郡天塩町

〇出　　品　　財　経営（酪農）

〇受　賞　理　由

・地域の概要

天塩町は、北海道の北部、天北酪農地帯の南西部にあり、日本海に面した町で、夏場は冷涼で降雨も少なく、全道有数の強風地帯である。乳牛飼養頭数は約１万頭、生乳生産量は年間約４万ｔあり、広大な草地を活かした放牧酪農が盛んな町である。

・　受賞者の取組の経過と経営の現況

受賞者は大学卒業後、乳業メーカーに就職。自分で酪農をする夢を果たすため、11 年間勤めた会社を辞め、北海道の２牧場で研修後、さらに牧場を引き継ぐことを前提として、前オーナーの下で研修した後に就農した。牛舎、牛、草地、施設・機械を購入して、引き継ぎ後は昼夜放牧を行い、全頭が同じ時期に分娩する季節繁殖への取組、人工授精ではなく種雄牛による授精への移行、子牛の完全放牧などを取り入れた。これにより、サラリーマン時代と同程度の労働時間で、他に類を見ないほどの高所得率で、高収益酪農を実現した。

・受賞者の特色

（１）収益性を高める集約放牧

放牧草は高蛋白で嗜好性の高いペレニアルライグラスで、牛の状態を見ながら濃厚飼料で栄養調整を行い健康状態を保っている。また、放牧地については簡易更新を行い、採草地は土壌診断に基づく施肥を実施している。さらに、草地更新は毎年５～６ha ずつ行っており、これにより牧草の栄養価を高め、粗飼料自給率を 100%にすることで購入飼料を減らし、乳飼比を低くして収益を高めている。

（２）季節繁殖の導入により省力化を実現

飼養する乳牛を同じ時期に分娩させるため、育成牛は発情同期化による人工授精で分娩時期を揃え、２～４月に分娩した経産牛は自然に５～６月に発情期を迎え、種付けは同時放牧の種雄牛に任せている。平均分娩間隔は 385 日と高い受胎状況である。季節繁殖の導入により分娩、哺乳時期と牧草収穫期が重ならず、また、種付けの作業負担が軽減され、牧草収穫に専念できる。牛群は世代別の３群で、飼養管理は簡素化・省力化できる。また、１～２月は搾乳を休止しゆとりを創出する。

・　普及性と今後の発展方向

高栄養自給飼料生産のための圃場管理の精密化と有効利用、大胆な季節繁殖の導入を可能とする種雄牛を活用した繁殖管理により、高い収益性と省力化を実現できる。今後は更に連産性向上、生産力の高い草地作りを実践するとしている。